

1 バリアフリーリフォーム事例

アプローチ・玄関ポーチ

高齢者・障害者が家に閉じこもらず、社会と交流を図る上で、アプローチは社会との接点の場です。雨や雪の日の外出はもちろん、車椅子使用者や高齢者も安全に訪問できるようにすることが大切です。

又、より長く我家で生活するために、ホームヘルパー・入浴サービスなどの、在宅福祉サービスを受け入れ易いよう考えておくことも大切です。

リフォーム指針

- 火災などの緊急時には安全に避難できるようにする。
- 道路・敷地・ポーチの段差は、スロープや緩い階段に解消する。
- 溝や溝ふたは、杖・車いすのキャスターが引っかからないようにする。
- アプローチ及びポーチに落雪しないようにする。

改造のポイント

敷地の広さをうまく利用してスロープの傾斜をゆるくする。

★改造のアドバイス

道路に勢いあまって飛び出さないように、平な部分を確保しておくこと。

改造のポイント

手摺はできるだけ連続させる。

★改造のアドバイス

杖等がグレーチングの目に入る危険があるので、細目のグレーチングに取り替える。

★改造のアドバイス

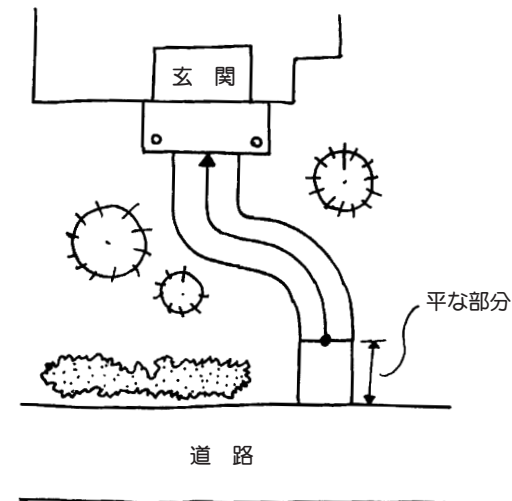
段と手摺の間にすきまを設けないこと。



▲ゆるやかなスロープ



▲連続した手摺があるアプローチ



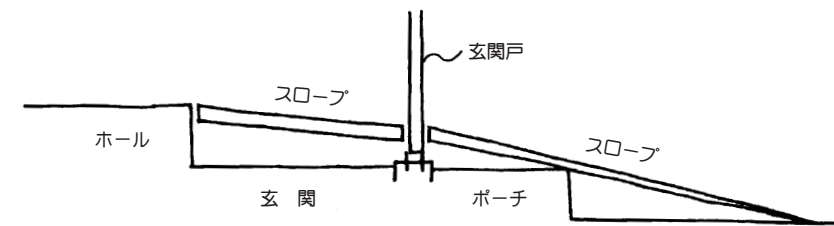
▲ポーチの段の横に手すりのついたゆるやかな段の設置



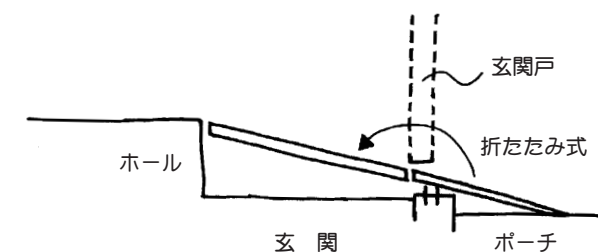
▲玄関戸をはさんだスロープ



▲同左内側



▲玄関戸をはさんだスロープ



改造のポイント

- せまい玄関内で、スロープを作ると傾斜が急になるので、玄関戸をはさんでスロープを設置する。
- 屋外スロープは可動式となっている。
- 車いすが、落下しないようにスロープの縁を立ち上げる。

★改造のアドバイス

この事例は、介助者がいるケースであり、介助者なしのケースは、玄関戸の前後も平なスペースが必要となる。

改造のポイント

スロープを折りたたみ式にすることにより、スロープの傾斜を緩やかにする。

★改造のアドバイス

- 玄関戸の開閉時に操作が必要であるが、開き戸にも対応できる。
- スロープの勾配は、使用する人の体力や、介助の有無により、適切に決定すること。
- 車いす使用者が自力で昇降するには1/12～1/15の勾配が目安です。